

さんよりこより

古風伝える天伯祭

美篤の川手地区の天伯様と富県桜井の天伯様に伝わる七夕祭りで、三峰川の洪水を鎮める目的で毎年8月7日の七夕祭の日に行われる。子どもたちが「さんよりこより」という掛け声とともに鬼を叩き、その後大人が神輿を担いで川を渡るお祭り。伝承によれば、室町時代の中期、1427(応永34)年、藤沢片倉(現高遠)に居られた天伯様が洪水によって富県桜井に流れ着き、その後再び洪水によって美篤川手に流れ着いた。これを縁として、桜井と川手に天伯様をお祀りしたのがはじまりとされ、足利時代の1472(文明4)年から続いていると言われている。



飾り竹で鬼をたたく子供たち



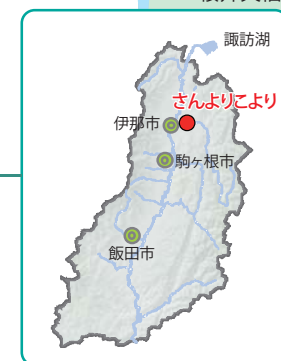
御輿をかつぎ川をわたり富県桜井の天伯社へ



川手天伯社



桜井天伯社



information

□ アクセス

伊那ICから10km
車→20分

□ 所在地

伊那市美篤、富県



川渡り

洪水を鎮める

大人二人が鬼に扮し、子供たちは飾り竹を持って「さんよりこより(さあーよってこいよおーの意)」と唱えながら鬼の周りをぐるぐると周る。鬼が太鼓を叩くと、子供達は手にした飾り竹で鬼を滅多打ちにし、その後、ご神体の御輿をかついで三峰川を渡り、川手の天伯様から桜井の天伯様へ向かう。

洪水を起こす疫病神(鬼)を叩きつぶし、洪水を鎮める神事とされ、「さんよりこより」と呼ばれるのはかけ声からきたもの。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)